

但馬さわやかトークの概要（続き）

参加者1 ここで、知事からごあいさつを。

知 事 今日は、自分でめざした道を懸命に努力されている皆さんの話を伺いました。失敗の積み重ねがあったからこそ、今こうやってニコニコしながら話ができるのだと思います。

それぞれに特色ありますが、共通しているのは「やり続けて地域をよくしたい」「自分の生き甲斐を満足させたい」「自分の理想を追求したい」という志があるから実践されているのだと実感しました。応援する家族、仲間が皆さんを支えているのだと感じました。

久斗山は4集落に分かれ、区長さんの役割は大変だと思いますが、大なり小なり限界集落と言われる所は、同じような課題を抱えています。

放牧できそうな所は沢山ありそうですが、使わせない、利用されない土地のために難しいのですね。使えるようマッチングできればいいですね。

来年度、農業改良普及センターを中心に地域就農支援センターをつくり、ワンストップで相談にのろうとしています。相談にのった人の熱意、知識、人脈が大きいのではと思います。

先日、関西経済連合会から豊岡農業改良普及センターの西村いつき普及員が輝く女性賞を受賞しました。彼女はコウノトリ米の普及を先頭に立って進めてきました。熱心なアドバイザーがいると地域も付いてきます。熱心な普及員をどれだけ用意できるかがバックアップの要諦になると思っています。

県としては、但馬、丹波、西播磨、淡路では、皆さんのような第1線で活躍するフロンティアの後に続いて活躍できるような環境づくりをしていきたいと認識しています。

参加者1 ここから活動の現状に関する提案や意見、また、地域の活性化に必要なことや今後の展開について、フリーの意見交換をしていきたいと思います。

参加者3 放牧場について、神鍋高原のゴルフ場がスキー場を経営していましたが、今では草原になり、地域で草刈りをしないといけなくなりました。私は、大変だと言うのではなく、昔のように放牧場にしようと言っていますが、地域に昔からいる「オッターン」(笑い)が、日役は嫌と言いながら、否定ばかりしています。

私達Iターン者がそれを辛抱強く説得し、こじ開けようと思っています。有料で放牧場を見学してもらうことで、地域が潤い、雇用も生まれると思っています。

市民農園は、できて10年になり、限られた土地で栽培しているので、連作障害が起きています。放牧した翌年を農園にし、その翌年を休耕するという循環をつくれれば、日役も免れ、皆得するので、ぜひ牛を連れてきてもらえれば。(笑い)うまく結びついたらと思います。

参加者10 放牧場を確保するのは難しいのが現状です。土地は使っているが、地権者が分からないという問題があります。

牛が入ることで間伐され、山がよくなります。昔は1軒に牛1頭飼っていましたが、今は畜産と一般住民に隔たりができてしまいました。村の総会でもお願いし、了解が出ても、実際に行くと「やっぱり止めてほしい」と言われることもあります。

そこで、小代スキー場の横に、自分たちで間伐し、「モデル放牧場」を作り、実際に見ただいて、理解してもらっています。地域と牛とをつなげるため、小学校を対象に牧場体験を行い、牛が当たり前にいる環境をつくらうとしています。

参加者3 但馬牛は全国区ですが、消費者は見たことがないので、実際に放牧場で見せれば、観光の目玉になると思います。

参加者6 規模拡大のため、牛舎を建てようとした際、住民の理解が得られず、2カ所に分かれてしまいました。1カ所になると作業は楽ですが、もう1カ所は一宮にあるという現状です。

田舎に但馬牛が草を食むという原風景にあこがれ、「アルプスの少女ハイジ」のように、作れるものは何でも自給する暮らしをしようと思っていました。しかし、実際には、流動化しない土地や家の問題があります。

また、ハートは温かいけれど、新しい事に対して二つ返事で物事が前に行かない、でも納得すれば、辛抱強くひたむきに向かっていくという、但馬の人たちの良さと弱点の問題もあります。そこをうまくつかめば、経済的にも両立すると思います。都会的なスピードや便利さを求めると、但馬では成功モデルになりません。経済的な成功なくして、但馬の活性化はないというのが私の持論です。但馬のよい所を活かして、いろんな所で外からのお金の落ちる仕組みをつくるべきと考えます。但馬牛のいる風景を見に、観光客が来るよう、土地の地権者と畜産をコーディネートしていただければと思います。

参加者3 要は、農業に産業としての視点を入れて、生活できるやり方でないといけないのに、後継者は我が子でないといけないとか、先祖伝来の土地は手放さないというのが現状です。

知 事 参加者7さん、雑草が沢山生えると思いますが、どうされているの？

参加者7 子どもと同じで、苗が小さい間は、愛情を注いで、草に負けないよう、周りだけ抜いてやりますが、関係ない所は抜きません。虫が沢山いることで、野菜に悪い虫を食べてくれるので、病気になったことがありません。しかし、雑草は多いので、近所の人のため、畦だけはきれいに刈っています。

藤田県議 周りは農薬をやっているから、虫が怖がって集まるだけで、迷惑をかけていないのでは。

知 事 逆に、虫の集め場になっているのでは。私の子どもの頃の記憶では、田の草取りは本当に嫌でした。

参加者1 経済的にはどうですか？

参加者7 やはり、収量は少なく、半分かくらいですが、値段は倍以上です。体力は要りますが、機械や農薬の費用が要りません。

参加者1 インターネット販売で、随分儲かっている無農薬農家もおられます。

知 事 ユニークな農産物をつくっている方は、インターネット販売が主流になりつつありますね。インターネットで出すと、結構お客がつくらしい。いろんな試みをやっている方がおられますので、農業改良普及センター情報を毎月マスコミに流していました。最初は取り上げてくれましたが、そのうち取り上げてくれなくなりました。情報をどう発信するかは難しいです。

参加者1 例えば、新規就農やユニークな農産物など、県でポータルサイトをという可能性は？

知 事 要は、目次のようなHPを作っておき、そこから専門的なページに飛んで、また戻ってきてもらえばいいということ、心がけていますが、何しろ情報が多すぎる。探すのが大変なので工夫が必要です。

ラーメン屋を起業したい人がいても、「ラーメン屋」では必要な情報は出てきません。「起業」で検索していただく必要があります。情報はありますが、その辺のアピールが弱い。ヤフーでも「兵庫県」は入っていても、「兵庫県新規就農」は入っていないので、売り込み方や項目のセットの仕方が大事だと思います。

参加者 1 参加者 9 さん、若くしてお店の設備費など投資されたと思いますが、借金は大丈夫？

参加者 9 おかげさまで、借金はありません。若者の賃金が低いので、遊びを減らしているような状況で、若者が流出しています。

知 事 サンライズカフェに常連のお客さんは、何人ついているの？

参加者 9 20 人くらい。夜の方がお客は多いです。

参加者 5 私も 20 人の一人です。私が感心するのは、若いだけでなく、70 年代の音楽を流して、団塊の世代も対象にしています。また、近所のおじいちゃん、おばあちゃんがランチに来ています。味も異国情緒があり、魅力的です。

知 事 黒川の最若年が 30 歳代ということでしたが、結婚されていますか？

参加者 8 いいえ、結婚している方は皆出ています。

知 事 ぜひコウノトリの会に入ってください。久斗山は単身の男性は残っていませんか？

参加者 11 残っています。50 歳代もいます。

知 事 養父市八鹿町岩崎でのトークでも、40 歳代の未婚男性が 4 人とか聞きました。でも、定年退職後、63 歳で結婚した友人がいます、しかも初婚ですので、大丈夫です。(笑い)ところで、外に出た方は、おじいさん、おばあさんの所に訪ねてきますか？

参加者 8 イベントの時には、帰ってきた際に家に立ち寄り、そこで、イベントに来ている都市部の人との出会いもあるという感じです。都会の人が入ってくるようになり、出て行った人も、帰り易くなりました。

知 事 それと、オオサンショウウオの博物館は、朝来の内水面漁業センターとタイアップしたらよい発想が出るのでは？

参加者 8 廃校になった母校に灯りがつくようになり、また、夏休みには、子ども達が入ってくるようになり、とてもうれしく思っています。

知 事 但東町は、チューリップやモンゴル博物館など存在感がありましたが、合併後は、コウノトリの話題が中心ですが、そのあたりはどうですか？

参加者 2 情報が流れなくなりました。それと、新聞をとっていないお年寄りも多いです。テレビは見ておられますが、有線放送のニュースも聞こえにくいので、聞かないという状況です。それで有志で「おっとりっしゃ」という新聞をつくっています。

知 事 それはどういう意味ですか？

参加者 2 但馬の方言で「おやまあ」という意味です。「怖い」という意味ではありません。全戸配布したいのですが、お金がかかります。

知 事 驚きの意味ですね。インターネットでメーリングリストにして送ると安いですよ。印刷したい人は、自分ですればよい。

ところが、高齢者はパソコンが使えない？本当は但馬のような地理が広大で、人口がまばらな所では、インターネットは有効なのですがね。

藤田県議 データをとってみないと分かりませんが、高齢者のインターネットやメールの利用率は低い。ハードを含めて、開発し直す必要があると思います。

知 事 携帯電話は、お年寄り用が開発されました。パソコンでもお年寄り用が必要ですね。

参加者 1 合併前に比べ、情報の伝達が悪くなっているような気がしますので、地域に必要な情報を伝達する仕組みを再構築する必要はあると思います。

知 事 久斗山はどうですか？

参加者 11 インターネットは光が入っています。基地が地区内にあります。

参加者 1 最後に、皆さんにこれからの抱負をお願いします。

参加者 11 廃校になった小学校を活用して地域おこしをしようと、皆さんの意見を聞き、ビジネスを含んだ利用をしようということになり、農産加工組合と地区公民館、コミュニティセンターとして活用し、地域のコミュニティの場をつくらうとしています。

また、県民交流広場事業の仕上げとして今年、理科室を改修して、料理ができるようにしたいです。宿泊施設はありませんが、せっかくの小規模集落元気作戦を活用しながら、都市との交流ができるよう、他の農家民宿に泊まっていただき、こちらで体験いただけるような新しい受け入れをしていきたいと思います。

知 事 非常口と避難階段の件は？

参加者 11 改修すればよいが、旅館業法ではまずいということで、畳を敷いています。

知 事 営業しなければいい？部屋貸しは？

参加者 11 ええ。ホームステイのような感じで、部屋貸しはできます。

知 事 営業するのがよいのか、考える必要もありますね。

参加者 1 久斗山は地味な所でしょ？

参加者 11 インターネットでは、安泰寺が出てきます。京都から最も不便な所を探してきた禅寺です。全国3カ所の候補地から選ばれました。(笑い)

参加者 10 新規就農当初は、自分の力だけでやっていると思っていましたが、いろんな人の力があって、育ててもらってきたという思いが募るようになりました。

将来の夢として、牛飼いが子どものあこがれる職業にしたい、そのために、次の若い人を育てたいと思っています。これまで、自分が「儲からない」とか、「本気でやれ」とか、「大変だ」と、マイナス面を言い過ぎましたので、若い人が途中で逃げていきました。これからは自分が楽しい所を見せていきたいと思います。

知 事 そこまで達観できるまで、時間がかかるでしょうね。頑張ってください。

参加者 1 とても熱い方だ。あなたのお話をお聞きして感動した。

参加者 9 若者が流出するのは、町の活性化としても、お店としても寂しいので、できることから勉強して実践していきたいと思います。

知 事 UターンやIターンの人の方が、郷土に肩入れしてくれる気がします。若者を留めておくのではなく、1回外に出して経験させてから、戻ってくるよう呼びかけた方がよい。しかし決め手がないので、皆さんの意見を参考にさせていただいています。

参加者 8 黒川地区では「黒川アンコウミュージアム構想」を立ち上げています。黒川全体を大きな博物館として、売り出そうと活動を始めました。その中で、黒川あそび会やNPO法人日本ハンザキ研究所、小規模集落元気作戦などが、個々に事業を行っています。小さな村ですので、村だけでは何もできませんが、全体の中で助けを借りながら、進めていきたいと思いません。

県内の全小学校に自然学校などで呼び込みたいと思っています。その際、地元のおじいちゃん、おばあちゃんに講師になってもらい、地元の人にお小遣い程度のお金が入るような仕組みをつくっていききたい。ボランティアだけでは続きませんので、経済的にも収益があがるように頑張っていきます。

参加者 1 30年後の黒川はどうなっていますか？

参加者8 私一人いるかもしれません。(笑い)

知 事 新年度、地域で空間活用計画をつくって、既存事業を活用しながら、地域おこしをしていただくという県土空間活用モデル事業も始めることにしています。

参加者7 若い人の働く所がないとか話が出ていますが、田舎の人は、そこにあるものでお金をどうつくるかではなく、大きな商業施設とか工場誘致とか、周りに頼るばかりのように思います。自分で何かをしようという発想はありません。

但馬には山もあり自然は豊かで、お金を稼ぐ種は多いと思います。私には、やりたいことが一杯あります。そういうことを地域でも言っていきたい。また、米は1年作らないと種物はできません。大きなことはできませんが、何千年と続いてきた種物を絶やさないう、農業を続けていこうと思っています。

知 事 自分で何とかしようという姿勢がないという話ですが、段々と変わってきていると思います。皆さんのような刺激的な活動をしている方を見て、何とかしないといけないと思っておられるのではないのでしょうか。

それと団塊の世代が戻ってきます。この動きを主体的に捕まえることが大事ですので、そのための仕組みづくりを作っていく必要があります。

参加者6 パン工房の前に定年退職の夫婦が入ってこられ、焼きたてのパンがありがたいと買いに来られます。まとめてパンを買って帰られる、都会との二重暮らしの方もおられます。定年後、田舎に入ってこられて、村の日役に出来るかどうか、また、村の付き合い、祭の風習を聞き出せないためになじめず、疎外感を感じてしまうのでは、と心配しています。

通学、買い物、病院など、普通に暮らせるような整備をすれば、地域は活性化につながりますが、それも難しい状況にありますので、若者が何とか希望を持ってやっっていこうとすれば、働く場が必要となります。地元の採用はパート、嘱託しかありませんので、私達が頑張っ、一人でも多く雇用したいと思っています。

また、皆自営業になれるわけではありませんが、能力を引き出し、何とか生活できるような経済力をつけられるよう、支援していきたい。若者が定着しないと、子どもが増えないし、次の世代につながりません。地元で働く所があれば、但馬に残るといふ高校生も多いので、そういう受け皿をつくっていきたいと思っています。

知 事 日役に参加しないから、地域にとけ込めないということに対して、良い手だてはありますか？

参加者6 声をかけられた事は、全部やるということでやってきました。婦人会で踊れと言われたら踊ったし、駅伝大会でも走りました。妻には子どもの付き合いがありますが、夫が地元の消防団に入ってから、地域との垣根がとれました。そのうち、PTAなど毎年、役が回ってきて、引き受けていると、ここは大丈夫ということになります。それと、家を借りている間は、「いつ居なくなるか分からない」と見られていましたが、土地を買って家を改装したら、「しばらくは居てくれる」といふ雰囲気になりました。

知 事 丹波でもこの話はよく聞きます。セカンドハウスを持つ人は、難しい付き合いをしに来ている訳ではありません。そこに、地元と同じような付き合いを言われると、セカンドハウス自体が嫌になります。

参加者1 但馬には、マニュアル発想と都会的なサービス精神はありません。日役など、「来れば分かる」と事前の説明はありません。そういう土地柄ですので、馴染みながら、仲良く付き合っ

ていくしかありません。

参加者5 2年間で4家族をお世話させていただきました。現在、3～5家族が、家の見つかるのを待機しています。二地域居住の方も多いが、それは、何があるか分からないので、年をとってから、都会に帰る逃げ道を残しておきたいからです。それでも、私達は交流人口を増やすため、通過でもいいから、来て頂こうと考えています。

熱い仲人がそこに居続け、駆け込み寺として、一緒に考え、夢を見るという所が拠点となって広がっていけば、明かりが見えてきます。

3月8日に、新たなクライガルテン構想を発表する予定です。私達は、農地がからむと、従来のものはできないが、地元には、農業者クラブや、今では作れなくなった農業者が沢山おられます。また、「荒れた土地を何とかしてほしい」と提供する方も出てきました。それらを組み合わせようとしています。

田舎暮らし塾を始めたところ、多自然居住重点推進地区に指定され、拠点の整備に補助金もいただきました。県や市から教をいただいていますので、大胆に果敢に立ち向かっていこうと思っています。

知 事 いろんな事業がありますから、組み合わせればできます。

藤田県議 今日、一所懸命に活動されている特異なメンバーが集まったと思います。内容的には、今からここに住んで子育てをしようという方と、大体の人生の設計を描けていて後の余生をいかに地域に貢献しようかという方の、2つのグループの交流だったと捉えています。

次に、継続となると、次世代にわたって活動を続けることになりますが、交流の捉え方としては、あくまで地域が元気になるための交流を、定住とまでいかなくても、そこに留めようといのは、大事な役目です。

一方、定住となると、人口を増やすことですので、道路をつくる運動や、農業で食えるような補助金をとろうと活動をする以前に、自分の子どもや孫が、今ある家にきちんと住んでくれるような環境を整える、親の責任をどうとるのかという相談をする会をやってほしいと思います。

家をきちんと守っていくことを、きちんと子に教えていく親の責任はないのかと思います。そうすると、地域活性化のための行政への要望も違う形になるのではないのでしょうか。

いずれにしても元気をいただいたし、但馬は捨てたものではないと強く感じました。今後の活動を側面から支援していきたいと思います。

参加者4 陽気塾を神鍋に根を下ろして約10年。塾生の多くはIターン、Uターンです。村の人は遠慮をされますので、何でも言ってくれと言っています。これからも、私達が仲に入って、架け橋の役目を果たしていきたいと思います。

知 事 どうやって、お客の立場から村の仲間の立場に変わるかですね。

参加者3 やはり、村の付き合いをしないとイケません。

参加者4 今回のように、市民農園のような役目も来ますが、これで村を良い方に変えていきたいと思います。

参加者3 オッターンの悪口を言いましたが、オッターンでも危機意識がある人はおられます。「どうにかせなあかん」という思いは持っておられます。ぼやきだけでは、建設的な意見は出てきませんので、時間がかかりますが、私が言い続けていきたい。

参加者2 社会福祉法人の傘下に入り、今後は自立支援のパン工房になっていくと思います。形を変

えて支援いただきたい。

「ほんもの便」に野菜を入れていますが、京野菜という言葉に負けてしまいます。但馬の野菜をアピールすることを、あちこちでしていただきたい。水のおいしい所で育てているので、新鮮で元気な野菜です。全国区で宅配すると「おいしい」と評判をいただいています。「但馬野菜」というPRをどこかでしてほしい。都会の人に京野菜程インパクトできたらいいと思います。

知 事 岩津ネギはブランド化しています。コウノトリ米がブランド化しつつありますが、「コウノトリ野菜」では長すぎますので、「夢野菜」ですかね。

県民局長 また、相談させていただきます。

知 事 今年の農業についての主要施策はブランド化です。

参加者1 皆さんの意見が一通り終わりました。大変有意義であったと思います。最後に、知事から一言を。

知 事 これからの夢も聞きましたが、自分のやりたいことを突き詰めていこう、そのために夢をどう実現するかという熱意と方向に対する確信を聞かせていただき、とても感動しました。ぜひ頑張ってください。

我々が皆さんのような、先達の後押しをしないといけないと改めて感じたし、職場をどう考えるかということ、私達ももう一度考える必要があります。

大企業に但馬に工場をお願いすると、人が採用できないと言われます。単純作業はロボットがするので、中堅技術者がいると言われます。中堅技術者は但馬に少ない。結果、都会で集めて但馬に行かそうとすると、なかなかずっとは行ってくれない状況です。

私は、Iターンしたい人がいますので、良い職場であれば人は採れると言っています。また、家族等に情報を流して、戻ってこさせられるので、良い職場情報を提供してほしいと言っており、ようやくネットワークができつつあります。

片方で問題点を抱え、一方で生き甲斐だけで田舎に残れと言っても残れませんので、それをどう考えていくかということだと思います。

「子どものためにどう地域を整備したらよいかを考えたら、別の発想が出てくるのではないか」というのも一つですが、過疎地域では特に、これまでずっとそれをやってきました。それが何故うまくいかないかと言うと、逆に子どもは追い出してでも一度外に出して、外の世界を体験させて考えさせ、戻ってくるような環境整備をした方が、時間はかかりますが、着実なのではという気がしています。これからどう仕掛けるかが大きな課題です。

参加者5さんが面白いプラットホームを用意していただいていますので、大いに進めて頂きたい。

丹波には「たんばぐみ」が活動していますので、お互い情報交換して刺激を受けて頂けたらと思います。今日は本当に生の具体の活動ぶりを聞かせていただき、ありがとうございました。

参加者1 皆さんの熱いドラマの1ページを拝見した思いです。今まで以上に交流を深め、がんばりましょう。ありがとうございました。